

## 問 「ボトルtoボトル」の取り組み状況は

答 約7割を新ペットボトルに再商品化



光風会  
えり 恵利 議員

**問** ペットボトルからペットボトルへ何度も生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」の取り組みは、新たな原料を使用する場合と比べてCO<sub>2</sub>の排出量を約60%削減できる。考えを伺う。

**答** ペットボトルを資源として半永久的に循環させることが可能で、環境負荷の削減効果が高いと認識している。

**問** プラ（プラスチック）ごみ再資源化の課題は何か。

**答** 令和4年「プラ新法」施行によりプラ使用製品の全般が再商品化の対象になった。プ



資源として再利用するための選別・圧縮作業の様子

ラを素材としている製品の回収と再商品化の取り組みが課題である。

**問** 資源の枯渇が心配される。住民への啓発がこれまで以上に必要と考えるが、いかがか。

**答** 効果的に資源を循環するためには、住民の皆さまにプラ製品を資源として捉え、適切な分別・収集方法を理解いただくことが肝要と認識している。しかし、プラ製品には多様な素材が使用され、正しく分別するのが難しい課題もある。工夫を凝らした普及に努める。

## 問 屋内遊び場の整備が必要

答 必要性を認識し調査開始



新政とうかい  
みやもと しょうた 議員

**問** 夏季の高温化により屋外での遊びが困難な日が続いた。熱中症から子どもの命を守り、遊ぶ権利を保障するためにも、屋内遊具施設の整備が必要では。

**答** 今年も記録的な暑さとなり、熱中症のみならず遊具でのやけどの懸念から外遊びが制限され、運動不足やストレスを不安視する声もあると推察している。村内の現行施設は多様な体験の機会を提供しているが、夏季において自由に体を動かして遊べる環境としては十分ではない。遊びは子どもの成長の原点であ



常総市の全天候型キッズパーク

り、主体性や創造性を育むものであることから、季節や天候に左右されない環境整備の必要性を認識している。

**問** 屋内遊び場の整備は待ったなしの課題と考えるが、現時点でのスケジュール感を伺う。

**答** 屋内遊び場については、その必要性を認識し、本村に適した形を調査・研究し始めた段階である。どのような施設を、どこに、誰が整備するかといった方向性が定まり次第、スケジュールについても示したい。